

公益社団法人日本看護科学学会 平成25年12月社員総会 議事録

日時：平成25年(2013年)12月5日(木)17:30~20:30

場所：大阪国際会議場 12階 特別会議場

大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51 TEL:06-4803-5555

総社員数：202名

出席社員数：152名(会場64名、委任状88名)

会場出席者：社員(代議員)

田村やよひ理事長、安酸史子副理事長

萱間真美、グレッグ美鈴、小坂橋喜久代、酒井郁子、高橋真理、宮崎美砂子、

山本あい子、吉沢豊予子、和住淑子

(以上11名、理事)

小島操子、近藤潤子

(以上2名、監事)

青木きよ子、明石恵子、浅野みどり、畦地博子、荒尾晴恵、安藤詳子、

安藤広子、池添志乃、石井邦子、市江和子、井部俊子、植田喜久子、

上野栄一、大島弓子、大津廣子、片岡純、片田範子、勝田仁美、

鎌倉やよい、河口てる子、北原悦子、小松浩子、紺家千津子、佐藤富美子、

清水嘉子、新道幸恵、高木廣文、高橋照子、田代順子、田中京子、

谷本真理子、津島ひろ江、筒井真優美、鶴田恵子、時長美希、中尾久子、

長戸和子、野口眞弓、野並葉子、早川和生、

林優子(第33回日本看護科学学会学術集会会長)、

牧本清子、松田たみ子、水野道代、百瀬由美子、森明子、森下利子、

森下安子、山田律子、良村貞子、渡辺タミ子

[50音順]

(以上51名)

理事(非代議員) 武田祐子、中山洋子

議長：田村やよひ(理事長)

議事録作成者：高橋真理(総務担当理事)

I. 開会

開会時、会場出席社員数57名(うち理事・監事13名)、有効委任状88名、総計145名であり、全代議員202名の過半数であるため、定款第23条、第24条に定められた要件を満たしており、公益社団法人日本看護科学学会の平成25年12月社員総会は成立した。

司会は安酸副理事長、書記は大田康江、立岡弓子で行なわれた。

II. 理事長挨拶 <田村理事長>

以下の挨拶があった。

全国からこの大阪の地に、多くの社員がお集まりいただいたことを嬉しく思います。6月の定例

社員総会から新体制で動き始め、前期理事会からの引き継ぎも受けて活動してきました。なお、同総会でご承認いただいた新理事のうち、阿保順子理事が一身上の理由で11月に辞任したことを報告します。

また、7月17日には名誉会員の高橋シュン先生がご逝去されました。先生のご冥福を祈り、皆様で1分間の黙祷を捧げたいと思います。

〔黙祷〕

この5か月余りで、看護学の研究・教育・実践を取り巻く状況が変化しております。8月の社会保障制度改革国民会議の報告では、看護大学の定員の拡大、大卒社会人の新たな教育制度創設の提案がありました。また11月8日の厚労省の社会保障審議会医療部会では、特定行為に関わる看護師の研修制度が了承され、時期通常国会に法案が出される予定ということです。本社員総会の目的は、各委員会の活動状況の報告を行ない、平成26年度の事業計画案と予算案の審議・決定、また名誉会員および第36回学術集会（JANS36）会長の審議・決定をいただくことです。本総会の内容は明日（12月6日）の学会総会で報告する予定です。

本総会で、代議員の皆様と多くの意見交換ができればと思っております。JANSが看護学の発展を通して国民の健康・福祉の発展に貢献していくという目的を果たすべく、使命感をもって皆様とともに邁進して参りたいと考えております。

Ⅲ. 第33回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶 <林会長>

以下の挨拶があった。

学術集会開催の企画準備段階では、小松前理事長、田村現理事長、前期および当期の理事会の先生方には多大なご支援とご助言をいただきました。またJANS本部事務所からも多くのご支援をいただきました。企画委員会では、兵庫、大阪、京都、滋賀の各大学から1名ずつ委員になっていただき、“オール関西”で進めてきました。また大阪医科大学看護学部 of 全教員で準備を進めてきました。

現時点で参加登録者数が2,130名（正会員1,701名、非会員425名、学部学生4名）と、昨年度より増えています。演題については、一般演題907演題、口演178演題、示説729演題、交流集会45演題となっています。協賛については目標額を達成しており、ランチオンセミナー7件、展示29件、書籍展示5件、広告54件、寄付20件が集まりました。さらに大学院の広報活動としてキャリア開発展示を設定し、11大学が参加予定です。

実行委員253名とボランティア115名と、多くの方々のご支援のお蔭で成り立っている学術集会であると思っております。代議員の皆様のご協力も得て、参加登録者が増えたと考えており、心から御礼申し上げます。力を合わせて頑張ってお参りますので、ご支援をよろしく願います。

Ⅳ. 議長指名および議事録署名人の承認

定款第22条3項に従い、田村理事長が議長に選出された。

会場出席者から議事録署名人を募ったが、立候補がなかったため、議長より代議員の浅野みどり氏、北原悦子氏の2名が推薦され、満場一致により承認された。

V. 報告事項

1. 理事会報告および社員総会報告 <田村理事長>

議案書(pp2-6)に基づき、以下の報告があった。

新体制となった直後の平成 25 年度臨時理事会では、各理事の担当委員会を決定した。また、厚生労働省が「関係学会を対象とした意見募集」を行なっている、診療の補助に位置づける特定行為(案)と指定研修における行為群(案)に関して審議を行ない、8月5日に本会の意見を届けた。

平成25年度第3回理事会では、第36回学術集会(JANS36)会長候補者選出の検討、名誉会員候補者の推薦を行なった。また、平成26年度6月定例社員総会を、JANS セミナーと同日開催で行なうこととした。入会審査における会員資格基準について、「研究報告」という文言を「研究発表」に統一する改定をした。

平成25年度第4回理事会では、JANS36の会長が推薦され、承認された。2014年1月下旬開催の第3回JANSセミナーの進捗状況を確認した。

平成25年度第5回理事会では、本社員総会および明日の学会総会の最終確認をした。理事会の報告は以上である。

平成25年度6月定例社員総会(2013年6月23日、於:ベルサール神田)は、平成24年度の事業報告が行なわれ、平成24年度決算、会計監査報告、理事選任案が承認された。

2. 総務報告 <高橋理事>

議案書(p7)に基づき、以下の報告があった。

平成25年(2013年)10月31日現在の会員推移について、入会者819名、新規入会者739名、再入会者80名である。資格喪失者は324名で、内訳は自主退会者186名、会員未納者138名となっている。

10月31日現在の正会員数は7,531名、名誉会員10名、賛助会員5件で、会員総数は7,546名である。地区別や推移については資料の表に示した通りである。会員数は平成22年度の移行期から増加傾向にあり、平成24年度から約500名の増加となった。

3. 委員会活動報告

議案書(pp10-17)に基づき、各担当理事より以下の報告があった。

1) 総務委員会 <高橋理事>

入会審査の理事会報告、および会員データ管理を行なった。

会員管理については、オンライン会員管理システム、会員自身によるマイページ利用とも、順調に稼働している。

会員への迅速な情報伝達、Web選挙の運用など、会員の登録メールアドレスへの配信も活用されており、現在のメールアドレス登録状況は7,032件である。ただし、約400件について到着確認がとれていない状況であるため、今後、追跡をしていく予定である。

事務所運営については、レイアウト変更など、効率化施策を行なった。

2) 和文誌編集委員会 <萱間理事>

委員会を2回開催し、明日(12月6日)、第3回を開催する予定である。

学会誌は第33巻第1号、第2号、第3号を発刊・送付し、第4号は今月、送付予定である。2014年には本格的に電子ジャーナル化され、これまで年4回の発行だった冊子体が、年1回の合本版のみの発行となる。2015年からは電子ジャーナルのみの予定だが、第33巻第4号を送付する際に、受益者負担による冊子体の要不要に関するアンケートを同梱するので、回答をお願いしたい。電子ジャーナル化により、論文がアクセプトされたら早急に掲載できる環境を整えるため、また優秀な論文を早く掲載するため、専任査読者が査読のスピードを上げていく必要があると考え、先生方にもご協力をお願いする。

3) 英文誌編集委員会 <グレッグ理事>

Holzemer編集長来日のもと、委員会を1回開催した。

JJNS(Japan Journal of Nursing Science)のVol.9No.2(2012年12月)とVol.10No.1(2013年6月)を発刊し、それぞれ7,080名と7,010名に頒布した。Vol.10No.2が冊子体の最終号となるため、「JJNS発刊10周年記念号」として通常の投稿論文以外に寄稿を依頼し、掲載する。

2012年10月27日にJJNSセミナーを開催し、参加者85名で好評であった。

学会員の投稿を促すため、編集長と編集委員長連名の手紙とともに、サンプル誌を博士後期課程のある71の大学院に送付した。

2012年度のimpact factorは0.583と上昇した。

4) 研究・学術情報委員会 <吉沢理事>

Webからの参加者も含め、委員会を1回開催した。また適宜、メール会議にて情報共有を図った。

看護系学会等社会保険連合(看保連)の関連委員会へ出席した。

平成24年度に実施した「若手看護学研究者の研究実施状況に関する調査」の報告書を学会HPで公開し、看護系大学院長あてに送付した。また、報告書をもとにJJNSに1本の論文を投稿した。

2013年6月に第2回JANSセミナーを実施した。

若手アカデミー発足に向けて、同企画メンバーがJANS33で交流集会を予定している。

5) 国際活動推進委員会 <中山理事>

世界看護科学学会(World Academy of Nursing Science : WANS)の事務局業務を行なうとともに、2013年10月18日に韓国で開催された第3回学術集会の支援をした。学術集会ではブースを設け、広報委員会の協力のもと、WANSの広報活動を行なった。

WANSのホームページを充実させるため、内容の検討と更新準備をしている。

異文化データベースを見直して情報の更新や修正を行ない、活用しやすくするための検討をしている。また、看護学のグローバルスタンダードや国際活動のあり方を討議している。

6)看護学学術用語検討委員会 <小坂橋理事>

本委員会は第12期となるが、2回開催した。第11期委員会が過去25年間の成果の見直しと整理を行なったが、今期は検討された成果物3編をもとに、学術用語のさらなる体系化の作業をISO(学術用語作成のための標準マニュアル)に添って進めていく。また改めて、用語の編纂作業計画を見直し、具体化し、組織作りと用語の抽出等の具体的作業を開始する。

本学会でとりあげる学術用語の範囲は、看護学の研究・教育・実践に活用されるものであり、看護学を構成する共通用語あるいは核となる用語とする視点で検討していく。各専門学会においても、用語の検討が行なわれており、他機関からも情報をいただきながら、本学会で取り上げるべき核的な用語に関しては慎重に検討していきたい。

7)看護倫理検討委員会 <麻原理事> ※欠席により理事長代読

委員会は2回開催し、今期の活動計画を立案した。

倫理審査の対象に関するガイドライン作成のため、国内外の文献・資料の検討と専門家へのヒアリングを行なった。

8)社会貢献委員会 <武田理事>

委員会を1回開催し、その後は適宜、メール会議で情報共有と協議を行なった。

第33回および第34回学術集会企画委員と連携し、企画を進めている。

第33回学術集会開催時の企画として、市民フォーラム「ほんまかいな！ 笑いの力で健康増進」を予定している。また中高校生を対象としたナーシング・サイエンス・カフェでは、テーマを「めがせ看護職！ 先輩が語る看護の仕事とその魅力」とし、準備を進めてきた。会期中の12月7日(土)に委員会を開催する。

9)表彰論文選考委員会 <宮崎理事>

委員会を2回開催し、最初に表彰論文選考の方針、基準、手順を確認した。

表彰論文の選考対象は、英文誌がVol.9、和文誌が第32巻である。委員会にて優秀賞候補3論文(和文2編、英文1編)および奨励賞候補3論文(和文3編)に絞り込み、2013年9月中旬、全代議員202名に採点を依頼した。うち70名より返信があり、回収率は34.7%であった。集計結果に基づき、委員会で最終選考を行ない、以下の通り、優秀賞論文1編、奨励賞論文2編を決定し、第4回理事会(11月4日)に報告し承認を得た。なお、回収率は、昨年度よりはやや上昇しているが、今後は代議員が選考しやすい方法を検討していきたい。

[優秀賞]

Nobuko OKUBO:

Effectiveness of the “Elevated Position” Nursing Care Program in promoting the reconditioning of patients with acute cerebrovascular disease.

(Japan Journal of Nursing Science,9(1),76-87,2012.)

[奨励賞]

角田秋、柳井晴夫、上野桂子、木全真理、瀬尾智美、船越明子、萱間真美：
精神科訪問看護ケアの類型化の検討—訪問看護ステーションが統合失調症を有する人
へ提供するケアの類型と対象の特性—（日本看護科学会誌、32(2),3-12,2012.）

[奨励賞]

布谷(吹田)麻耶、鎌倉やよい、深田順子、熊澤友紀
クローン病患者への食事指導プログラムの開発と有効性の検証
(日本看護科学学会誌,32(3),74-84,2012.)

10) 広報委員会 <酒井理事>

前年度に業務マニュアルを作成し、連携手順を見直したことで、活動が効率的になった。
第33回学術集会の企画委員との連携による広報活動、社会貢献委員会との連携による
広報活動を行なった。

国際活動推進委員会と連携し、第3回WANS学術集会にてJANSの広報を行なった。
第34回学術集会企画委員会に広報委員を派遣し、連携を促進した。

11) 研究倫理審査委員会 <田村理事長>

審議すべき事案が申請されなかったため、委員会は開催されなかった。

12) 災害看護支援事業専門委員会 <山本理事>

平成 24 年度災害看護支援金による助成事業の募集を行ない、8 件の応募から 4 件を
採択した。本事業は日本看護系学会協議会(JANA)との共催で実施している。

今回の学術集会の交流集会において、平成 23 年度と 24 年度で採択した事業の活動
報告を行なう。日程は 12 月 7 日の午前 10~11 時である。また事業支援資金調達
のため、「ワンコイン募金活動」を実施予定であり、集められた資金は次の助成事業へ
つなげていきたいと考えており、ご協力をお願いしたい。

また、11 月 8 日のフィリピンの台風災害に対して何かしたいという要望を多くいただいた。
専用口座開設などを考えたが、時間がかかる等の理由ですぐには困難であった。そこで、
日本災害看護学会が、災害看護支援と被災された看護師支援という目的で口座を開設
し募金活動を開始しているという情報を得たため、JANS のホームページ上で情報提供を
している。ご賛同いただける方は、ご協力をお願いしたい。

13) 学術振興事業検討委員会 <田村理事長>

本委員会は将来構想委員会(注:平成 23 年度までの時限的委員会)からの提言に基づき、
本学会における学術振興について深く検討する目的で発足した。本年度は5月と11月に
2 回の委員会を開催した。

今後の活動の方向性として、以下の 3 点を検討した。

①JANS の Nursing Academy としての特性や組織力を生かした活動

JANSセミナーを定期的開催し、研究方法の学習機会の提供を強化する。

②若手看護学研究者アカデミーの組織化

若手看護学研究者の交流集会の参加者を中核とし、今後どのように組織化し、その組織を学会の中でどのように位置づけ、どういう条件が若手アカデミーとして学会に登録できるのか、どのような時期に若手を卒業できるか、検討の必要がある。また会員数7,000人を超える本学会が若手を刺激し、アンブレラ学会としての特性を生かした学会活動をいかに展開できるか、演題発表が論文に至らない実態をどのように支援していくかの検討が必要である。

③Up to dateな政策提言

今後の体制作りについて意見交換した。

この他、外部委員で植物学を専門とする古在豊樹先生より、「様々な領域の学会があるが、毎年500人規模で会員が増えている学会はとても稀である。また、賛助会員の数は通常、会員10人に対して1件くらいである」との意見があった。現状では賛助会員は5件であるが、今後、賛助会員になっていただけそうな組織との連携を検討していく必要がある。

14)他機関との連携活動

①日本看護系学会協議会 <安酸副理事長>

現段階では理事会全体で対応しており、6月17日の平成25年度総会に小松前理事長、田代前副理事長が出席した。総会にて、新入会員として3学会(日本母子看護学会、運動器看護学会、日本公衆衛生看護学会)が承認され、計41学会となった。新規活動として、日本学術会議・学術組織との交流・相互協力事業として「看護ケアガイドライン開発推進プロジェクト」が承認された。新規事業として、日本看護系学会協議会の在り方検討会の立ち上げ、役員選出に関する検討プロジェクトの立ち上げが承認された。

本学会より、東日本大震災支援事業の事業費確保のため、募金の取り組みを依頼した。総会后、看護学領域における外部資金獲得のための講演会が行われた。

②看護系学会等社会保険連合 <吉沢理事>

新役員が選出され、副代表2名のうち1名に日本看護科学学会推薦の岡谷恵子氏(研究・学術情報委員)が選出された。同連合の助成金に対し、本学会から推薦した研究計画が採択された。管理負担金について検討されてきたが、平成26年度より本学会の負担は7万円となった。診療報酬の適正評価のため、看護ケア技術体系化の調査が各学会対象に行なわれており、検討が本格化している。看護技術検討委員会にて、2014年度に実施される次回の診療報酬改定に向け、「医療技術評価提案書」の取りまとめが行なわれ、未収載14件、既収載9件の医療技術提案書が厚生労働省に提出された。

③日本学術会議 <安酸副理事長>

日本学術会議ニュース・メールを役員に提供している。

④世界看護科学学会 <中山理事>

2013年は韓国ソウルの The K-Seoul Hotel において、10月17日に理事会、翌18日に学術集会が開催された。日本人は360名と多くの参加者があり、交流が深められた。理事会は6つの機関から11名が参加し、南裕子氏が次期(2014年1月～2015年12月)も理事長を務めることが決定した。第4回学術集会はドイツのハノーファー(Hannover)で開催することが決定し、会長は Iris Meyenburg-Altwarg 氏である。課題である WANS 会員拡大と会費について理事会で議論され、事務局を担うために必要な予算を JANS が把握、報告した上で、会費を徴収するかどうかを含め、今後2年間の組織固めを検討することとなった。ホームページ充実のための検討を行ない、更新の準備をしている。

⑤その他の機関 <安酸副理事長>

厚生労働省による関係学会を対象とした意見募集「指定研修における行為群(案)～行為群に対するその他のご意見」について、7月臨時理事会(7月15日)で審議された内容および理事会後に役員から寄せられた意見を取りまとめ、8月5日(月)に厚生労働省へメールで提出した。

以上の報告について、会場より質問があった。

[質疑応答]

- 看護系学会に共通して言えることだが、社会的な注目を引かない特徴がある。学会での発表を世間に発信していく必要がある。社会的認知を得るため、広報委員会が積極的に活動すべきと考える。議案書(p13)に「プレスリリース、記録など」とあるが、具体的にどのような活動をされたのか。
→(酒井理事) プレスリリースの方法としては、テレビ局、FMラジオ、メジャーな新聞に資料提供を実施した。また個人的に記者数名に周知をした。現在までで反応があったのは3件であった。代議員の皆様からマスコミの人脈のご紹介など、ご協力をお願いしたいと考えている。社会的注目をあびる研究活動に力を集約するという本質的な努力も必要と考える。広報とは「広報する題材がある」ことが前提の活動であるので、双方の活動が必要であると考えている。
- 議案書(p13)に「連携手順、業務マニュアルを作成した」とあるが、具体的にはどのようなことか。
→(酒井理事) プレスリリースは例年よりは2～3週間は早めにリリースした。また学術集会の広報活動について企画委員会と緊密に連絡をとった。全国的なPRとローカルなPRの双方を上手に行なう必要があると考えており、皆様にもよいアイデアをいただきたい。
- よい研究について、記者クラブに投げ込みするというのはどうか。
→(酒井理事) 投げ込みは行なっており、1～2件の反応はあった。記者からの助言だが、投げ込みは効率がよくないとのことである。ヘルスケア担当記者と緊密な連携をとるほうが効率的と言われた。
- 看護学学術用語検討委員会の「ISOに沿った作業」(p12)とは、具体的にはどのようなもの

であるか。

→(小坂橋理事) ISO(学術用語作成のための国際標準マニュアル)に沿って、まず作業のための組織をどのように作るか、用語集の目的適応範囲について、検討し始めた段階である。理事会でも審議中であり、2年間の任期では一貫して検討しきれない懸念もある課題である。

→重要なことなので、成果を期待したい。

○科学的知見を発信していく学会の役割として、先取りをする方法に費用をかけられないか。研究発表後に後追いでリリースするのではなく、発表前にキャッチする。一例として、今、何が看護界に影響を与えているのかを課題化できる人材に依頼し、他領域の人にも加わってもらいながら、委員としてではなく、ワーキンググループとしての報酬支払なども考えられるのではないか。また、必要なワーキンググループを速やかに立ち上げて、若手アカデミーとの協力など組織的な計画が出てくると、もっと先に進めるのではないか。将来構想報告書に則りながら発展させる形態だが、若手アカデミーは研究だけではその体験を生かせないのではないか。今までと違った組織形態のための予算立ては可能であるか。

→(田村理事長) 今いただいた発言を刺激として今後、検討させていただきたい。

VI. 審議事項

1. 平成26年度事業計画案の承認 <田村理事長>

議案書(p18)に基づき、以下の説明がされた。

鎌倉やよい会長のもと、第34回日本看護科学学会学術集会(JANS34)を開催予定である。第35回および第36回日本看護科学学会学術集会の準備を進めていく。

和文誌の発行では電子ジャーナル化を推進するとともに、年1回の合本版を発行する。

英文誌の発行でも電子ジャーナル化を進めていく。

看護学学術振興対策として、以下の4件を進める。1)看護学学術用語の検討、2)国際活動推進として世界看護科学学会(WANS)を含む活動、3)看護倫理の検討と啓発では倫理審査にあたってのガイドライン作成、利益相反についての議論、4)研究成果の蓄積と活用、である。

学術研究論文の表彰では、優秀賞と奨励賞の数を今後は増やしていきたいと考えている。

学会組織の強化・発展として、1)若手研究者育成のための新規事業、2)JANSセミナー、3)学術振興事業の検討、4)学会誌の電子化、5)選挙の電子化、6)遠隔会議システムの導入による委員会活動のさらなる活発化、などを行なっていく。

社会貢献活動、広報活動、日本看護系学会協議会との共同事業による災害看護支援事業も進めていきたい。

他機関との連携活動では、従来の連携機関を挙げているが、さらに他機関を見いだしていく必要もあると考えている。

さらに来期の重要課題として、平成27年選出代議員選挙の実施、平成27年選出役員候補者選挙準備の実施を行なっていく。

以上の議案について、満場一致により承認された。

2. 平成26年度予算案の承認 <和住理事>

議案書(pp19-23)に基づき、以下の説明がされた。

事業活動収支の部として、事業活動収入合計 128,418,800 円、事業活動支出合計 126,577,400 円を計上した。なお、事業費支出における英文誌編集委員会費支出は、平成 25 年度予算よりも 780,000 円増となっているが、これは若手研究者支援のための英文誌投稿への支援事業などによるものである。また管理費支出の中の給料手当支出において 980,000 円増となっているが、事務所業務の増大に伴い、総務担当スタッフ 1 名の増員を見込んだためである。また通勤費支出および福利厚生費支出が増えているが、事務職員 1 名の転居に伴う通勤経路変更で通勤費が増え、これに伴い社会保険料なども増額した。

事業活動収支差額は 1,841,400 円の黒字予算である。

投資活動収支の部では、投資活動収入合計(資産の取り崩し)が 4,575,000 円、投資活動支出合計(選挙積立預金や災害看護支援資産を含む特定目的のある資産の積立)が 3,200,000 円であり、収支差額は 1,375,000 円となる。

本学会では資産を増やすための財務活動を行っていないため、財務活動収入は0円となっている。

また、予備費として例年、300万円計上している。

議案書(p21)の当期収支差額は216,400円の黒字であり、前年の3,971,950円の赤字から改善している。また、次期繰越収支差額は56,145,690円を見込んでおり、前期繰越収支差額55,929,290円と比べて増額している。

議案書(pp22-23)の「平成26年度 収支予算書」については、挟んである黄色の紙「平成26年度 収支予算書(訂正表)」のほうで説明する。この表は前ページの収支予算書を、内閣府に提出する様式に書き直したものである。

正会員受取会費の配分比率について、公益目的事業と法人会計を、それぞれ全体の40%と60%に振り分けた計上金額となっている。公益目的事業の当期計上増減額が赤字になっているが、これにより収益事業での黒字を振替えることで相殺され、収益事業への課税がされなくなり、公益法人としてメリットを活かしながら、収益事業を含む活動を充実させることのできる予算案になっている。

以上の議案について、満場一致により承認された。

3. 名誉会員の承認 <田村理事長>

議案書(pp24-25)に基づき、以下の説明がされた。

定款第 12 条および第 14 条の規程に則り、中島紀恵子氏、小玉香津子氏の 2 名が、各々の業績に基づいて名誉会員として推薦された。

以上の議案について、満場一致により承認された。

4. 第36回日本看護科学学会学術集会会長の承認 <田村理事長>

議案書(p26)に基づき、以下の説明がされた。

平成 28 年度(2016 年)に開催される第 36 回日本看護科学学会学術集会(JANS36)会長として、東京医科大学の岡谷恵子氏が推薦された。

以上の議案について、満場一致により承認された。

◆ その他の審議事項 <田村理事長>

以後は、会場からの自由な発言および質疑応答を行なった。

○研究者の育成が活発化したのはよいことである。とりわけ国立大学は助教の数が減らされ、少ない人数で実習をしていかなければならず、研究時間が確保できない状況がある。研究のできる環境、教育のできる環境作りを文科省などへ働きかけることが必要ではないか。

→(田村理事長) 貴重なご意見である。研究より教育の方に多くの時間を割いている現状に学会として何ができるか、検討していきたい。

○学会が発展していることがさまざまな数字から出ている。この発展がどういう方向に向かっているのか、数字だけでなく中身の検討をしていく必要がある。演題の領域を増やしている中で、どういう傾向があるのか、看護がどの方向へ行き、どのような新しい傾向が出ているのか、学会として社会に何を貢献しているのか等を発信していく必要がある。看護の知を集積し、発信することに対し、我々も一会員として尽力していきたいと思う

→(田村理事長) 学会の発展の内容を一般人に見える形で伝えていくこと、看護学がどの方向へ向かっているのかを示していくことは重要である。学術集会の在り方を5～6年くらいのスパンで見直し、検討することも必要ではないかと感じた。学術振興事業検討委員会でも検討していきたい。

○学術振興事業検討委員会の説明にあった「Up to dateな政策提言」について、学会からの提言も必要であるが、日本の「国民の健康増進」に関する政策がどちらの方向に向かっているのかと合わせて、我々が行なっている研究も見直し、整理していく必要があるのではないか。

→(田村理事長) ある学会では中心的なテーマを設定し、このテーマに関する発表は重点領域と打ち出して多めの時間配分を与えて学術集会を運営している。高齢化社会を世界に先駆けて経験している日本として、ここに重点を置き、他領域も併せて議論できるのではないかと思う。このことは学術集会の在り方の検討にもつながるのではないかと考える。学会からの政策提言として、在宅医療推進への提言にも結びつくとも思う。

→日本の抱えている課題は、世界共通の問題でもある。高齢化は日本において先駆的に進んでいるが、高齢化社会をひかえている国々は日本の情報を待ち望んでいる。わが国が現在行なっている看護を他国に伝えていくことは、日本の看護学の発展にも寄与すると考える。

→台湾、韓国は、日本の少子高齢化にたいへん関心が高い状況である。アジアの方々を招いて、日本の高齢者ケアの体験をしてもらい、ケアについて発信していく必要があるのではないか。

○(酒井理事) 老年看護学会の理事もしているので、情報提供をさせていただきたい。老年看護学会は老年学会の一つとなっており、「老年」は看護だけではなく、学際的なテーマ

である。同学会としてアジアの方々の研修を受け入れ、シンポジウムも開催している。今の日本が直面している課題は、看護だけで対応できるレベルではない。JANSが何を発信していくのかを明確にすることも大切だが、どのように学際的なネットワークを作っていくか、他の学問領域に貢献するのかを発信していくことも重要である。以上について広報のスタイルは様々だが、本気で広報をしようとするとは桁違いの経費になってしまう。その辺りをどの程度で折り合いがつくのかと考えた。

○(高橋理事) 少子化に関する内閣府の情報提供チームにおいて、看護の立場からプレゼンする機会を得た。現在、全国に看護系大学が多数ある中、看護の学生が高校生や中学生とジョイントして何ができるのかという話をした。その中で我々に求められていることは、全国にどのように具体的に展開していくのかという体制や政策であった。ぜひ、少子化についても本学会で検討していく必要がある。

→(田村理事長) 少子化と高齢化はセットなので、双方の検討をしていく必要があると考える。

→日本の状況と似ているのは台湾や韓国であり、他のアジア諸国は異なった状況である。よって、ただ単にアジアから日本に来て学んだらいいというわけではない。他のアジア諸国もスピード感をもって進んできており、例えばIT化がある。我々も謙虚に様々な国々から学ぶ必要がある。ただし日本がこれまで蓄積した知見、日本の看護として提示できる成果は発信していく必要がある。

○(萱間理事) 和文誌編集委員会からの報告に追加したい。オンラインジャーナル化とともに投稿種別の変更を検討している。現在の原著と研究報告は合わせ、原著として新しい定義を設定することを検討している。研究報告に代わるものは症例報告なのか実践報告なのか、まだ検討中の段階である。この件についてご意見があればいただきたい。

→学会誌が電子ジャーナル化し、研究成果が早く見られる機会が増えるのは喜ばしいことだが、懸念事項が一つある。看護管理学の領域では実践への提言を見る機会が現場管理者にとって少ない状況である。実践現場にわかりやすくコンパクトに、シートのような形で示せば、活用しやすいのではないかと考える。実践者に伝わりやすくするため、研究成果がサマライズされる仕組みの検討も必要ではないかと考える。実践家へのアクセスしやすさも、電子ジャーナル化とともに検討いただきたい。

→(萱間理事) 今のご意見は投稿種別というよりも、各論文の中の実践への示唆をわかりやすく共有できるような形で示してほしいというご意見と理解した。今後、勉強して検討させていただきたい。

○若手の育成がキーワードと感じている。それと同時にグローバル化も意識していかななくてはならない。JJNSやWANSとして発展しているが、学術集会のプログラムに実感としてどの程度、英語のキーワードがあるかと考える。英語表記を増やす必要があるのではないかと。Webサイトでも学会自体の情報を英語で発信する必要があると考える。

→(田村理事長) 日本のある学会では、時間帯によっては英語のプレゼンテーションのみ行なうという学術集会がある。今後、検討していく必要があるのかもしれない。

○従来は男性看護師の多くは精神科、手術室、ICUなどが活動の場であったが、最近では一般病棟においても活躍している。男性看護師は患者との関係性を構築していく中で、女性看護師とは違うアプローチの仕方があると感じる。今後、若手アカデミーの中で男性看護師に関して何らかの組織化をすることを考えていいのではないかと思う。

→(吉沢理事) 若手アカデミー自体は、男性だけを集めてという発想はまだ考えていなかったのので、参考にさせていただきたい。その件については看護管理系の分野で、男性看護師の働き方という課題で行なわれていると思うので、そちらの分野と連携しながら検討していきたいと思う。現在、若手アカデミーにおいて考えているのは実践家というよりも、むしろ研究者としてどのように発展させていくのかであり、その中に男女というファクターを持ってくるまでは検討していなかったが今後、検討の余地もあると思う。

Ⅶ. 閉会

以上をもって、すべての議事が終了したので、平成 25 年 12 月社員総会が閉会し、議事進行が議長(田村理事長)から司会(安酸副理事長)に戻された。

司会の安酸副理事長より、最終的な会場出席者数 64 名、有効委任状 88 名、合計 152 名である旨が報告され、平成 25 年 12 月社員総会が閉会した。

この議事録が正確であることを証するため、議長および議事録署名人により以上の議事を認め、記名押印する。

平成26年(2014年)1月31日

議 長 田 村 や よ ひ ⑩

議事録署名人 浅 野 み どり ⑩

議事録署名人 北 原 悦 子 ⑩

⑩

⑩

⑩

公益社団法人日本看護科学学会 平成25年12月社員総会 議案書

日 時 平成25年(2013年)12月5日(木) 17:30~20:30

場 所 大阪国際会議場 12階 特別会議場

大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51 TEL:06-4803-5555

I. 開会

II. 理事長挨拶

III. 第33回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 報告事項

1. 理事会報告および社員総会報告

2. 総務報告

3. 委員会活動報告

1) 総務委員会

2) 和文誌編集委員会

3) 英文誌編集委員会

4) 研究・学術情報委員会

5) 国際活動推進委員会

6) 看護学学術用語検討委員会

7) 看護倫理検討委員会

8) 社会貢献委員会

9) 表彰論文選考委員会

10) 広報委員会

11) 研究倫理審査委員会

12) 災害看護支援事業専門委員会

13) 学術振興事業検討委員会

14) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会

② 看護系学会等社会保険連合

③ 日本学術会議

④ 世界看護科学学会

⑤ その他の機関

VI. 審議事項

1. 平成26年度事業計画案の承認

2. 平成26年度予算案の承認

3. 名誉会員の承認

4. 第36回日本看護科学学会学術集会会長の承認

VII. 閉 会

公益社団法人日本看護科学学会 役員・社員

(平成 25 年 12 月 1 日現在)

理事長 田村 やよひ
副理事長 安酸 史子

第 33 回学術集會会長 林 優子
第 34 回学術集會会長 鎌倉 やよい
第 35 回学術集會会長 小山 眞理子

理事：麻原きよみ、萱間 真美、グレッグ美鈴、小坂橋喜久代、酒井 郁子、高橋 眞理、
武田 祐子、中山 洋子、宮崎 美砂子、山本 あい子、吉沢豊予子、和住 淑子
監事：小島 操子、近藤 潤子
名誉会員：飯田澄美子、稲岡 文昭、氏家 幸子、薄井 坦子、兼松百合子、林 滋子、樋口 康子、
日野原重明、松野かほる、山崎 智子
賛助会員：(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、(有)ヌーヴェルヒロカワ、(株)へるす出版
(以上、五十音順)

社員

【北海道】	永井 優子	及川 郁子	上野 栄一	北村 愛子	津島 ひろ江
石井 トク	成田 伸	数間 恵子	川島 和代	グレッグ美鈴	時長 美希
稲葉 佳江	縄 秀志	金井 PAK 雅子	北岡 和代	黒江 ゆり子	長戸 和子
奥宮 暁子	二渡 玉江	萱間 真美	紺家 千津子	坂下 玲子	中野 綾美
近藤 潤子	松田 たみ子	河口 てる子	西村 真実子	末原 紀美代	野嶋 佐由美
中村 恵子	水野 道代	川村 佐和子	【東海】	鈴木 志津枝	深井 喜代子
野川 道子	森 千鶴	小松 浩子	明石 恵子	高田 早苗	宮腰 由紀子
平 典子	【南関東】	坂本 すが	浅野 みどり	高見沢恵美子	森下 利子
三国 久美	青木 きよ子	佐藤 エキ子	安藤 詳子	田中 京子	森下 安子
山田 律子	石井 邦子	志自岐 康子	市江 和子	玉木 敦子	山勢 博彰
良村 貞子	石垣 和子	高木 廣文	大津 廣子	田村 恵子	山田 覚
【東北】	大島 弓子	武井 麻子	大西 和子	近澤 範子	【九州・沖縄】
安藤 広子	大室 律子	田代 順子	片岡 純	西村 ユミ	石原 逸子
石井 範子	岡田 忍	田中 美恵子	勝原 裕美子	二宮 啓子	井上 範江
角濱 春美	黒田 久美子	筒井 真優美	鎌倉 やよい	任 和子	宇座 美代子
叶谷 由佳	近藤 まゆみ	水流 聡子	紙屋 克子	野並 葉子	浦田 秀子
上泉 和子	酒井 郁子	鶴田 恵子	小島 操子	早川 和生	奥 祥子
桑名 佳代子	佐藤 紀子	野末 聖香	小西 美智子	林 千冬	小田 正枝
小林 淳子	佐藤 まゆみ	濱口 恵子	小松 万喜子	林 優子	嘉手苺 英子
佐藤 富美子	諏訪 さゆり	菱沼 典子	奈良間 美保	前原 澄子	川本 利恵子
塩飽 仁	高橋 眞理	福井 トシ子	野口 眞弓	牧本 清子	北原 悦子
徳永 恵子	谷本 眞理子	操 華子	藤井 徹也	町浦 美智子	金城 祥教
中村 由美子	中村 伸枝	宮本 真巳	藤本 栄子	山本 あい子	草間 朋子
布施 淳子	野地 有子	山本 則子	村本 淳子	【中国・四国】	斉藤 ひさ子
吉沢 豊予子	三上 れつ	【甲信越】	百瀬 由美子	畦地 博子	田中 美智子
リボウィッツよし子	宮崎 美砂子	阿保 順子	渡邊 順子	池添 志乃	中尾 久子
【北関東】	森 明子	内田 雅代	【近畿】	猪下 光	鳩野 洋子
安梅 勅江	山田 雅子	小林 康江	青山 ヒフミ	植田 喜久子	東 サトエ
牛久保美津子	山本 利江	清水 嘉子	荒尾 晴恵	小笠原 知枝	森田 敏子
大塚 眞理子	和住 淑子	征矢野あや子	井上 智子	小野 ミツ	安酸 史子
岡 美智代	【東京】	中込 さと子	上野 昌江	國方 弘子	矢野 正子
川口 孝泰	秋山 正子	堀内 ふき	岡谷 恵子	久保田 聰美	山勢 善江
小坂橋喜久代	麻原 きよみ	渡辺 タミ子	片田 範子	新道 幸恵	李 節子
佐伯 由香	有森 直子	渡辺 みどり	勝田 仁美	關戸 啓子	〔以上、202 名 地区別・五十音順〕
高橋 照子	井部 俊子	【北陸】	金川 克子	多田 敏子	
田村 やよひ	江本 リナ	稲垣 美智子	我部山キヨ子	田中 マキ子	

公益社団法人日本看護科学学会 理事会活動状況

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 12 月 5 日)

平成 25 年度第 1 回理事会

日 時：平成 25 年 5 月 12 日(日) 13:00～17:10

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）

出席者：理事 14 名、監事 1 名、第 34 回学術集会会長、第 34 回学術集會事務統括、選挙管理委員会委員長

〈報告事項〉

平成 24 年度第 6 回理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第 33 回日本看護科学学会学術集会（JANS33）の準備状況
2. 第 34 回日本看護科学学会学術集会（JANS34）の準備状況
3. 選挙管理委員会からの報告 …平成 25 年選出理事候補者選挙
4. 決算報告および監査報告の承認（各委員会予算執行状況/2013 年 3 月末現在）
5. 平成 25 年 6 月定例社員総会について
 - 1) 社員総会資料の確認
 - ① 平成 24 年度事業報告の承認
 - ② 平成 24 年度決算の承認
 - ③ 理事選任案の承認
 - 2) 役割分担シナリオの確認
6. 理事会からの報告
 - 1) 第 2 回 JANS セミナー（6 月 23 日）の準備状況
 - 2) 学術振興事業検討委員会/第 1 回委員会報告（5 月 11 日）
 - 3) 内閣府への申請結果（会費配分率変更、事業のカテゴリー変更）
 - 4) 代議員の辞任等による、次点者の繰り上げ就任について
 - 5) 電子投票を反映した選挙規程の修正案
7. 各委員会における事業の進捗状況
 - 1) 総務委員会からの報告
 - 2) 和文誌編集委員会からの報告
 - 3) 英文誌編集委員会からの報告
 - 4) 研究・学術情報委員会からの報告
 - 5) 国際活動推進委員会からの報告
 - 6) 看護学学術用語検討委員会からの報告
 - 7) 看護倫理検討委員会からの報告
 - 8) 社会貢献委員会からの報告
 - 9) 表彰論文選考委員会からの報告
 - 10) 広報委員会からの報告
 - 11) 研究倫理審査委員会からの報告
 - 12) 災害看護支援事業専門委員会からの報告
 - 13) 学術振興事業検討委員会からの報告

14) 他団体との連携について

- ・ 日本看護系学会協議会、日本学術会議、その他
- ・ 看護系学会等社会保険連合（看保連）
- ・ 世界看護科学学会

8. 入会希望者の承認

9. その他

平成 25 年度第 2 回理事会

日 時：平成 25 年 6 月 23 日(日) 9:00～10:20

場 所：ベルサール神田（東京都千代田区神田美土代町 7 住友不動産神田ビル 3F）

出席者：理事 11 名、監事 2 名、第 33 回学術集会会長

〈報告事項〉

平成 25 年度第 1 回理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第 33 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 34 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 社員総会資料と役割分担シナリオの最終確認およびリハーサル
4. 各委員会における事業の進捗状況
5. 入会希望者の承認
6. その他

平成 25 年度臨時理事会

日 時：平成 25 年 7 月 15 日(日) 13:00～15:30

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 14 名、監事 2 名

〈審議事項〉

はじめに … 理事長挨拶、役員自己紹介

1. 今後（2013 年 8 月～2014 年 2 月）の理事会日程
2. 平成 26 年度 6 月定例社員総会（2014 年）の日程
3. 各委員会における委員の承認
4. 第 2 回 JANS セミナーの報告
5. 各委員会からの事業報告
6. 厚生労働省「関係学会を対象とした意見募集」について
7. その他

〈連絡事項〉

1. 事務職員の勤務シフト、仕事の内容
2. Web 会議システムの利用法

平成 25 年度第 3 回理事会

日 時：平成 25 年 9 月 8 日(日) 13:00 ~16:40

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 12 名、監事 1 名、第 33 回学術集会会長、第 34 回学術集会会長

〈連絡事項〉

- 委員会活動報告および活動計画・予算案の提出（社員総会用）について
- 2013 年 12 月／学術集会開催時期の各会議について
- 事務所利用案内について

〈報告事項〉

平成 25 年度臨時理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第 33 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 34 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 第 36 回日本看護科学学会学術集会（JANS36）の候補者選出
4. 名誉会員候補の推薦
5. 平成 26 年度 6 月定例社員総会（2014 年 6 月 29 日）と JANS セミナーの同日開催についての検討
6. 入会審査における会員資格基準の改定について
7. 12 月社員総会の議事次第（案）
8. 第 33 回学会総会の議事次第（案）
9. 各委員会における予算執行状況（～8 月）
10. 各委員会における事業の進捗状況
11. 入会希望者の承認
12. その他

平成 25 年度第 4 回理事会

日 時：平成 25 年 11 月 4 日(月) 13:00 ~16:45

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 13 名（Web 参加 2 名）、監事 1 名、第 33 回学術集会会長、第 34 回学術集会会長

〈報告事項〉

平成 25 年度第 3 回理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第 33 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 34 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 第 36 回日本看護科学学会学術集会（JANS36）の会長選出
4. 各委員会における平成 26 年度事業計画と予算案
5. 平成 25 年 12 月社員総会について
 - 1) 社員総会資料の確認
 - ① 平成 26 年度事業計画の承認
 - ② 平成 26 年度予算の承認
 - 2) シナリオ確認

6. 第33回学会総会の資料とシナリオ確認
7. 平成25年度第3回JANSセミナーの準備状況
8. 各委員会における事業の進捗状況
9. 入会希望者の承認
10. その他

〈連絡事項〉

- JANS33 関連出張／出欠・宿泊希望の一覧
- 2013年12月／JANS33開催時期の各会議について …役員控室の変更

平成25年度第5回理事会

日時：平成25年12月5日（木） 14：00～16：00

場所：大阪国際会議場8階805会議室（大阪府大阪市北区中之島5-3-51）

出席者：理事13名、監事2名、第33回学術集会会長

〈報告事項〉

平成25年度第4回理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第33回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 社員総会資料の最終確認
3. 社員総会／役割分担シナリオの最終確認
4. 学会総会資料の最終確認
5. 学会総会／役割分担シナリオの最終確認
6. 第3回JANSセミナーの進捗状況
7. 各委員会における事業の進捗状況
8. 入会希望者の承認
9. その他

公益社団法人日本看護科学学会 社員総会活動状況

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 12 月 4 日)

平成 25 年 6 月社員総会

日 時 平成 25 年 6 月 23 日 (日) 11:30～14:00

場 所 ベルサール神田

東京都千代田区神田美土代町 7 住友不動産神田ビル 3F TEL:03-5281-3053

総社員数: 202 名

出席社員数: 159 名 (うち委任状 91 名)

I. 開会

II. 理事長挨拶

III. 第33回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 報告事項

1. 理事会および社員総会活動状況

2. 総務報告

3. 選挙管理委員会報告

4. 平成24年度事業報告

(1) 第 32 回日本看護科学学会学術集会開催

(2) 第 33 回・第 34 回日本看護科学学会学術集会準備

(3) 和文誌の発行

(4) 英文誌の発行

(5) 看護学学術振興対策

① 看護学学術用語の検討

② 国際活動の推進

③ 看護倫理の検討と啓発

④ 研究成果の蓄積と活用

⑤ JANS セミナー

(6) 学術研究論文の表彰

(7) 学会組織の強化・発展

・将来構想に基づく新たな展開への準備

(8) 社会貢献活動

(9) 広報活動

(10) 災害看護支援事業

(11) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会

② 看護系学会等社会保険連合

③ 日本学術会議

④ 世界看護科学学会

⑤ その他の機関

(12) 理事候補者選挙準備

(13) 30周年記念事業

VI. 審議事項

1. 平成24年度決算の承認および会計監査の報告

2. 理事選任案の承認

VII. その他

VIII. 閉会

総務報告

1. 会員推移（平成25年4月1日～平成25年10月31日）

① 正会員数増減

1) 平成25年4月1日正会員数

6,713名＝平成25年3月31日正会員数 7,037名 － 平成25年度資格喪失者 324名
 （自主退会 186名、会費未納 138名）

2) 平成25年度の入会者

819名＝新規入会 739名 + 再入会 80名

3) 平成25年度の死亡喪失者 1名

② 賛助会員増減 なし

③ 名誉会員増減

平成25年度死亡喪失者 1名 高橋シュン

④ 平成25年10月31日現在 会員数

正会員 7,531

名誉会員 10

賛助会員 5

会員総数 7,546

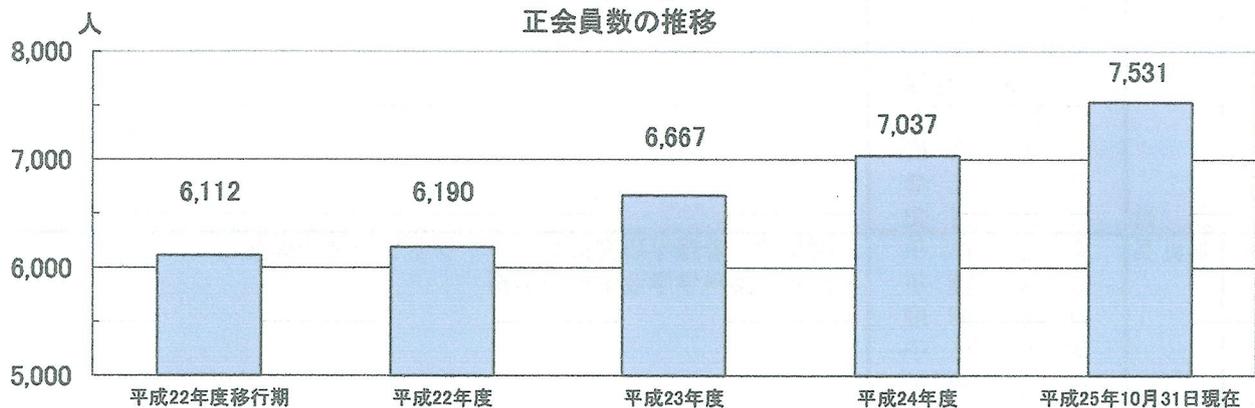
山崎智子 松野かほる 氏家幸子
 兼松百合子 林滋子 飯田澄美子
 日野原重明 福岡文昭 樋口康子 薄井坦子
 (株)医学書院 (株)へるす出版 (株)南江堂
 (株)日本看護協会出版会 (有)ヌーヴェルヒロカワ

2. 地区別正会員数

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	
北海道	北海道	333	北陸	富山	50	九州・沖縄	福岡	386	
東北	青森	131	201	石川	106		佐賀	39	
	岩手	44		福井	45		長崎	53	
	宮城	132	東海	静岡	160		熊本	71	
	秋田	60		愛知	313		大分	56	
	山形	60		岐阜	103		宮崎	54	
470	福島	43	736	三重	160		鹿児島	54	
				滋賀	94		沖縄	84	
北関東	茨城	118	近畿	京都	197		宛先不明者		36
	栃木	98		大阪	480		合計		7,531
	群馬	126		兵庫	405				
	埼玉	234		奈良	73				
南関東	千葉	326	中国・四国	和歌山	29				
	神奈川	478		鳥取	32				
甲信越	山梨	83	872	岡山	61				
	長野	111		広島	162				
	新潟	101		山口	220				
東京	京外	1116		徳島	49				
				香川	61				
			愛媛	76					
			高松	70					
				高知	141				

・名誉会員 10
 ・賛助会員 5

3. 正会員数の推移（年度別）



公益社団法人日本看護科学学会 平成25年度委員会名簿および分掌事項

委員会	役職	氏名	会務分掌
総務	委員長	高橋 眞理 和住 淑子 藤井 徹也	<ul style="list-style-type: none"> ・会員管理 ・入会審査 ・学会事務所の運営（総務会にて検討）
	委員長	萱間 眞美 吉沢 豊予子 浅野 みどり 牛久保 美津子 遠藤 淑美 大久保 暢子 佐伯 圭一郎 佐伯 由香子 酒井 明子 佐藤 紀子 諏訪 さゆり 竹崎 久美子 西村 眞実子 野地 有子 林 千冬子 眞嶋 朋子 宮本 有紀美 会 計 小野 智美	<ul style="list-style-type: none"> ・会誌の発行（年4号以上） ・学会誌への投稿の促進 ・査読システムの改良 ・論文電子化に伴う著作権の整備（機関リポジトリへの対応） ・表彰論文選考への参画 ・オンラインジャーナルの推進
和文誌編集	編集長 委員長	William L. Holzemer グレッグ 美鈴 山本 あい子 安部 陽子 石原 逸子 和泉 成子 岡田 彩子 小澤 三枝子 北岡 和代子 佐々木 美奈子 田代 順子 永田 智子 中村 美鈴 野口 眞弓 深井 喜代子 法橋 尚宏 堀内 成子 前田 ひとみ 眞壁 玲子 丸山 昭子 会 計 江藤 宏美	<ul style="list-style-type: none"> ・英文誌（オンライン版）の出版（年4号）（2014年から） ・英文誌の発行（年2号）・オンラインジャーナルの推進（2013年まで） ・査読システムの整備 ・投稿論文促進のための広報活動 ・インパクトファクター向上のための活動 ・和文誌編集委員会との協働 ・表彰論文選考への参画
	英文誌編集		
研究・学術情報	委員長	吉沢 豊予子 岡谷 恵子 柏木 聖代 河野 あゆみ 高見沢 恵美子 奈良間 美保 西村 ユミ 深堀 浩樹 宮下 光令 会 計 跡上 富美	<ul style="list-style-type: none"> ・内外の看護学研究に関する情報の収集、整理、発信 ・研究成果が診療報酬に適切に反映できるような活動の推進
	国際活動推進	委員長	中山 洋子 近藤 暁子 近藤 麻理子 清水 安子 田代 順子 南 裕子 会 計 原 咲子

委員会	役職	氏名	会務分掌
看護学学術用語検討	委員長 会計	小板橋 喜久代 大森 純子 大島 弓子 柏木 公一 佐藤 和佳子 新田 なつ子 山田 覚奈 石丸 美奈	・看護学学術用語に関する現状と展望の検討
看護倫理検討	委員長 会計	麻原 きよみ 安藤 広子 小野 美喜 小西 恵美子 百瀬 由美子 八尋 道子 三森 寧子	・研究者のモラル向上に向けた活動 ・看護学研究における倫理審査体制の構築 ・看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応 ・看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集・提供と、学会としての対応案の検討
社会貢献	委員長 会計	武田 祐子 井上 智子 近藤 まゆみ 佐久間 清美 佐々木 綾子 福田 紀子 藤屋 リカ	・一般市民に向けた活動 ・看護学を通じた社会への貢献およびその方策の検討・普及 ・学術集会開催時の他に社会貢献の実績を残す（市民公開講座、出版等） ・次世代の育成事業
表彰論文選考	委員長 会計	宮崎 美砂子 萱間 真美 グレッグ 美鈴 上野 昌江 大塚 眞理子 神田 清子 谷本 眞理子 本田 彰子	・和文誌・英文誌投稿論文からの表彰候補論文選考作業の円滑な運営 ・学会としての表彰論文の推薦 ・看護学への功績（学問の体系化等）のある人への表彰についての検討 ・他団体からの表彰に該当する候補者の推薦
広報	委員長 会計	酒井 郁子 清水 安子 林 直子 藤田 冬子 渡辺 かづみ 綿貫 成明 黒河内 仙奈	・ホームページ（JANS/WANS）の維持・管理・改善 ・学会活動の広報（委員会成果物のHP掲載等） ・学術集会の広報（プレスリリース等） ・WANS本部・WANS学術集会の広報 ・学術集会の記録
研究倫理審査	委員長 外部委員 外部委員 外部委員	田村 やよひ 勝原 裕美子 佐居 由美 掛江 直子 隈本 邦彦	・学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査
災害看護専門支援	委員長 会計	山本 あい子 武田 祐子 麻原 きよみ 田中 美恵子 佐々木 吉子 駒形 朋子	災害看護活動を支援するために以下の事項について協議及び審議を行う。 ・募金に関する事項 ・広報に関する事項 ・災害看護支援金の申請者等の選定の審査に関する事項 ・その他必要な事項
学術振興事業	委員長 外部委員	田村 やよひ 安酸 史子 吉沢 豊予子 太田 喜久子 西村 ユミ 古在 豊樹	・今後の40周年に向けて、公益社団法人としての学術振興の中・長期的活動方針を企画検討する。 ・公益社団法人としての社会貢献に向けた公益事業を検討する。 ・アンブレラ学会として看護学の発展への貢献活動を検討する。 (平成25年4月1日より活動開始) ※2年間の時限的委員会

委員会活動報告

1) 総務委員会

- ・ 入会審査の理事会報告、及び会員のデータ管理を行っている。会員管理については、オンラインシステム、会員自身のマイページの利用（延べ2,113件・平成24年11月28日～平成25年9月5日現在）ともに順調に稼働している。
- ・ 会員への迅速な情報伝達、また選挙のWeb化の運用等、登録されている会員のメールアドレスによる配信も活用されている。なお、現メールアドレスの登録状況は7,032件であり、約400件が到着確認がとれていない状況である。
- ・ 会員数は、7,546名（平成25年10月31日現在）であり、昨年度7,034名より順調に増加している。
- ・ 事務所運営の効率化を図るため、会議スペースと執務スペースを区分けするようレイアウトを変更した。
- ・ 学会事務所職員の勤務内容の把握、調整、面談を適宜行い、事務所ミーティングを定例で行った。
- ・ 定例社員総会準備を行った。
- ・ 各理事会、社員総会の議事の記録を担当した。

2) 和文誌編集委員会

- ・ 和文誌編集委員会を2回（平成25年4月20日、8月6日）開催した。
- ・ 日本看護科学会誌第33巻第1号、33巻第2号、33巻第3号を発行し、それぞれ会員7,070名、7,025名、7,620名に頒布した。
- ・ 和文誌完全電子ジャーナル化へむけて移行計画を実施、具体化した。

2013年：年4回冊子発行+J-STAGEで電子ジャーナル公開（年4回）

2014年：年1回冊子発行+電子ジャーナル刊行（ページ数と価格の検討）

現在の会員外の冊子体定期購読者もJ-STAGEからのオンライン閲覧ができるよう契約内容を検討し、2014年度契約分よりオンライン閲覧を可能とし、周知をはかった。

2015年：電子ジャーナル刊行（随時、論文単位で）+印刷版の有無と別刷り価格を2014年度中に会員への意向調査を行って決定することとした。

オンラインへの随時掲載に関する費用と実施体制の検討を行った。

- ・ 専任査読委員制度の実効性を高めるため、任期満了および新規就任者の検討と依頼を行った。

- ・ 投稿種別の検討（原著の定義、研究報告の扱い）を開始した。
- ・ オンライン査読のスピードアップに関する検討と試行を実施した。
- ・ 機関リポジトリへの掲載依頼に対応した（1件）。

3) 英文誌編集委員会

- ・ Holzemer 編集長が来日のもと、英文誌編集委員会を1回開催した。
- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol.9 No.2 (2012年12月)とVol.10 No.1 (2013年6月)を発刊し、それぞれ7,080名と7,010名に頒布した (Vol.9 No.1からは+375)。
- ・ Vol.10 No.2が冊子体の最終号となるため、JJNS 発刊10周年記念号と位置付け、通常の投稿論文以外に寄稿を依頼し、掲載することとした。
- ・ 2012年10月27日に啓発活動としてのセミナー“Improving Your Success at Publishing in English”を開催した。参加者85名で、好評であった。
- ・ 学会員の投稿を促すため、編集長・編集委員長の手紙とともにサンプル誌を博士後期課程のある71の大学院に送付した。
- ・ 2012年度のimpact factorは、0.583と上昇した。

4) 研究・学術情報委員会

- ・ 研究・学術情報委員会を1回開催した。Webにて3名の委員が参加し、全員参加の会議となった。またメール会議を適宜開催し、情報の共有および協議を行った。
- ・ 看護系学会等社会保険連合（看保連）関連委員会に出席した。
- ・ 平成24年度に行った「若手看護系研究者調査」の報告書を作成、HP公開と看護系大学院長宛てに報告書を送付した。
- ・ 「若手看護系研究者調査」を基に、1本の論文を投稿した。
- ・ 平成25年6月第2回JANSセミナーを企画した。
- ・ 若手アカデミー発足に向けて、若手アカデミー企画メンバーが第33回日本看護科学学会学術集会で交流集會を持った。

5) 国際活動推進委員会

- ・ 世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science : WANS）の事務局としての業務を行うとともに、平成25（2013）年10月18日に韓国SeoulのThe K-Seoul Hotelで開催された第3回WANS学術集会（会長Dr. Nam Cho Kim, Korean Society of Nursing Science）の開催を支援した。また、学術集会ではブースを設け、広報委員会と協力してWANSの広報活動を行った。
- ・ WANSのホームページを充実させるために内容の検討を行い、更新する準備をしている。
- ・ 異文化データベースを見直して情報の更新や修正を行い、活用しやすいものになるよう検討している。
- ・ 看護学のグローバルスタンダードや国際活動のあり方について討議をしている。

6) 看護学学術用語検討委員会

- ・ 看護学学術用語検討委員会を2回開催した。
- ・ これまでに検討された看護学学術用語の成果物を元に、さらなる学術用語の体系化のために、ISO（学術用語作成のための国際標準マニュアル）に沿って作業を開始した。なお、本会で取り上げる学術用語の範囲は、看護学の研究・教育・実践に活用されるものであり、看護学を構成する共通用語あるいは、核的な用語とする。

7) 看護倫理検討委員会

- ・ 看護倫理検討委員会を2回開催した。
- ・ 今期の委員会活動計画を立案した。
- ・ 倫理審査の対象に関するガイドライン作成のために、国内外の文献・資料の検討と専門家へのヒヤリングを行った。

8) 社会貢献委員会

- ・ 社会貢献委員会を1回開催し、その後はメール会議を適宜開催し、情報の共有および協議を行った。
- ・ 第33回、第34回学術集会企画委員会に参加し、本委員会による企画に関する連携を促進した。
- ・ 第33回学術集会開催時の企画として、市民フォーラムはテーマを「ほんまかいな！笑いの力で健康増進」とし、笑いの医学的効用、笑い看護について、理解を深めていただき、実際に『笑いヨガ』を体験頂くように企画した。中・高校生を対象としたナースィング・サイエンス・カフェは、テーマを「めざせ看護職！先輩が語る看護の仕事とその魅力」とし、準備を進めてきた。また、広報委員会と連携し、企画

の広報に努めた。

- ・ 企画開催当日に委員会を開催し、実施準備、両企画評価、来年度企画案等について、検討していくこととした。

9) 表彰論文選考委員会

- ・ 表彰論文選考委員会を2回（8月及び10月）開催した（対面会議とWeb会議を併用）。
- ・ 第1回委員会（8月31日）にて表彰論文選考方針、選考基準、選考手順を決定した。
- ・ 委員会にて優秀賞候補3論文（和文2論文、英文1論文）および奨励賞候補3論文（和文3論文）を絞り込み、これらについて、平成25年9月中旬に全代議員202名に採点を依頼した。
- ・ 10月25日までに返信された70通について評価点の集計を行った（回収率34.7%）。
- ・ 第2回委員会（10月31日）にて集計結果に基づき最終選考を行い、以下のように優秀賞論文1編、奨励賞論文2編を決定し、理事会（11月4日）に報告し、承認を得た。

【優秀賞】

Nobuko OKUBO :

Effectiveness of the “Elevated Position” Nursing Care Program in promoting the reconditioning of patients with acute cerebrovascular disease. Japan Journal of Nursing Science, 9(1), 76-87, 2012.

【奨励賞】

角田秋, 柳井晴夫, 上野桂子, 木全真理, 瀬尾智美, 船越明子, 萱間真美 :

精神科訪問看護ケアの類型化の検討—訪問看護ステーションが統合失調症を有する人へ提供するケアの類型と対象の特性—, 日本看護科学会誌, 32 (2), 3-12, 2012.

【奨励賞】

布谷 (吹田) 麻耶, 鎌倉やよい, 深田順子, 熊澤友紀 :

クローン病患者への食事指導プログラムの開発と有効性の検証, 日本看護科学会誌, 32 (3), 74-84, 2012.

10) 広報委員会

- ・ 広報委員会は必要に応じてメール等により活動した。3月に委員会開催予定である。前年度に連携手順、業務マニュアルを作成したことにより、活動の効率化が行われたため、委員会開催数を減少することができた。
- ・ 第33回学術集会企画委員会との連携による広報活動を行った。具体的にはプレスリリース（新聞社、ラジオ局、テレビ局）、記録などである。
- ・ 社会貢献委員会との連携による、市民フォーラムおよびナーシング・サイエンス・カフェ広報媒体を作

成した。

- ・ 国際活動推進委員会との連携による、第3回 WANS 学術集会での JANS 広報を行った。
- ・ 学会 HP の内容の更新、整理を行った。
- ・ 第34回学術集会企画委員会に参加し連携を促進した。

11) 研究倫理審査委員会

- ・ 審議すべき事案が申請されなかったため、委員会は開催されなかった。

12) 災害看護支援事業専門委員会

採択事業の詳細およびその経過

- ・ 平成 24 年度災害看護支援金による助成事業の募集を行い、8 件の応募（助成希望額の総額は 5,503,680 円）があった中から、平成 24 年度災害看護支援事業専門委員が看護支援事業規程第 7 条並びに応募要項の採択基準に基づいて厳正に審査を行った結果、平成 25 年度分として以下の 4 件を採択した。助成金の総額は、2,818,240 円（最高 995,000 円、最低 423,240 円）であった。
 - ① 東日本大震災および福島原発事故により茨城県に避難している母子の支援活動
(代表者・渋谷えみ氏)
 - ② 宮城大学看護学生・教職員による南三陸町に在住する高齢者への健康支援活動の充実強化
(代表者・佐々木久美子氏)
 - ③ 元気な高齢者を増やす取組み (代表者・川嶋みどり氏)
 - ④ 復興の力、コミュニティ再建のための中長期支援～はまってけらいん (集まって) かだつてけらいん (語って) を合い言葉に～ (代表者・尾山とし子氏)
- ・ 平成 25 年 9 月末に事業の進捗状況について中間報告の提出を受け、事業が順調に実施されていることを確認した。
- ・ 本事業は日本看護系学会協議会 (JANA) との共催で実施しているため、平成 24 年度助成事業の最終報告書、収支報告書及び平成 24 年度助成事業の中間報告書を JANA に提出した。
- ・ 【予定】第 33 回日本看護科学学会学術集会において交流集会を企画し、学会内での本事業への認知度を向上すること、および募金の促進を目指す。
(日時：12 月 7 日 (土) 10:00-11:00 (予定)、発表者：H23,24 年度採択事業の中から 4 件)
- ・ 【予定】第 33 回日本看護科学学会学術集会の 2 日間、チラシ (資料 1) の配布と募金箱設置、総会でのスライド (資料 2) 使用による呼びかけにより、ワンコイン募金活動を実施予定である。目標額 100 万円とし、参加者に広く協力をよびかける。また JANS 理事に協力をお願いし、各専門分野の学会からの

支援も依頼する。また、企業等に寄付を依頼する

- ・ 【予定】平成26年3月初旬に、平成26年度災害看護事業助成金申請の募集を開始する。

13) 学術振興事業検討委員会

- ・ 将来構想委員会の提言に基づいて、本会における学術振興について深く検討するため、5月、11月に2回会議を開催した。
- ・ 今後の活動の方向性として3点が挙げられ、検討を行った。
 - ① JANSのNursing Academyとしての特性や組織力を生かした活動
 - ② 若手看護学研究者アカデミーの組織化
 - ③ Up to Date な政策提言

14) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会

- ・ 平成25年6月17日(月)、平成25年度総会が日本赤十字看護大学 広尾ホールで開催され、小松前理事長、田代前副理事長が出席した。総会において、3学会(日本母子看護学会、運動器看護学会、日本公衆衛生看護学会)の新入が承認され、計41学会となった。

本年度の新規活動として、日本学術会議・学術組織との交流・相互協力の事業として「看護ケアガイドライン開発推進プロジェクト」が承認され、今年度各学会の現状確認することが承認された。新規事業として、(1)日本看護系協議会の在り方検討会の立ち上げ、(2)役員選出に関する検討プロジェクトを立ち上げることが承認された。

本学会、小松前理事長より東日本大震災支援事業の事業費確保のため、各学会へ募金の取り組みを依頼した。

総会后、「看護学領域における外部資金獲得のために」と題して、講演会がなされた。

② 看護系学会等社会保険連合

- ・ 新しく役員が選出され、第1回理事会で代表理事が井部俊子氏、副代表2名のうち1名に日本看護科学学会推薦の岡谷恵子氏(研究・学術情報委員会委員)が選出された。
- ・ 看保連の助成金に対し、日本看護科学学会から推薦した研究計画が採択された。
- ・ 管理費負担金のあり方が検討されてきたが、平成26年度より本学会は7万円支払うこととなった。
- ・ 診療報酬の適正評価のための看護ケア技術体系化の調査が各学会に行われていたが、看護技術の体系化

の検討が本格的に始まっている。

- ・ 看護技術検討委員会では2014年度に実施される次回の診療報酬改定に向け、「医療技術評価提案書」の取りまとめが行われ、未収録14件、既収録9件の医療技術提案書が厚生労働省に提出された。今後、医療技術評価分科会で検討される予定。

③ 日本学術会議

- ・ 日本学術会議から提供のあった日本学術会議ニュース・メールを役員に提供した。

④ 世界看護科学学会

- ・ 国際活動推進委員会は、JANSから理事会の理事長（Chairperson, Board of Directors）を出しているために、WANS事務局を担っている。平成25年度は、10月17日に韓国SeoulのThe K-Seoul Hotelで理事会を開催し、10月18日に第3回WANS学術集会（大会長Dr. Nam Cho Kim, Korean Society of Nursing Science）を開催した。
- ・ 第3回WANS学術集会の参加者は以下のとおりである。

	WANS参加者数	WANS演題数	
		Oral	Poster
Korea	200	5	79
Japan	360	16	246
Overseas	20	11	5
Total	580	32	330

Overseasの国名：Australia, Canada, China, Egypt, Malaysia, Philippines,
Singapore, Taiwan, Thailand, USA

- ・ 平成25（2013）年10月17日の理事会での決定事項と検討課題は以下の通りである。
 - 1) 第4回WANS学術集会は、平成27（2015）年10月にIris Meyenburg-Altward氏を大会長としてドイツHannoverにて開催することが決まった。
 - 2) 平成25（2013）年12月31日で任期が終わる理事長についてはJANSからの南裕子氏が次期

(平成26(2014)年1月～平成27(2015)年12月)も継続することが決まった。副理事長は、第4回WANS 学術集会会長 Iris Meyenburg-Altward 氏が就任する。

- ・ 課題となっていた WANS の会員拡大と参加費について理事会で議論され、現在、事務局を担うために必要となっている予算を JANS が把握、報告したうえで、会費を徴収するかどうか等について検討することになった。
- ・ ホームページを充実させるために内容の検討を行い、更新する準備をしている。

⑤ その他の機関

- ・ 厚生労働省による関係学会を対象とした意見募集「指定研修における行為群(案)～行為群に対するその他のご意見」について、7月臨時理事会(7月15日)で審議された内容、および理事会後に役員からメールで寄せられた意見を田村理事長、安酸副理事長、事務所で取りまとめ、提出期限の8月5日(月)に厚生労働省へメールで提出した。

公益社団法人 日本看護科学学会 平成 26 年度事業計画 (案)

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

1. 第 34 回日本看護科学学会学術集会開催
2. 第 35 回・第 36 回日本看護科学学会学術集会準備
3. 和文誌の発行 …電子ジャーナル (J-Stage) + 年 1 回合本版
4. 英文誌の発行 …電子ジャーナル (Wiley)
5. 看護学学術振興対策
 - 1) 看護学学術用語の検討
 - 2) 国際活動の推進 (世界看護科学学会を含む)
 - 3) 看護倫理の検討と啓発
 - 4) 研究成果の蓄積と活用
6. 学術研究論文の表彰
7. 学会組織の強化・発展
 - 1) 若手研究者育成のための新規事業
 - 2) JANS セミナー
 - 3) 学術振興事業の検討
 - 4) 学会誌の電子化
 - 5) 選挙の電子化
 - 6) 委員会等の遠隔会議システムの導入
8. 社会貢献活動
9. 広報活動
10. 災害看護支援事業 (日本看護系学会協議会との共同事業による)
11. 他機関との連携活動
 - 1) 日本看護系学会協議会
 - 2) 看護系学会等社会保険連合
 - 3) 日本学術会議
 - 4) その他の機関
12. 平成 27 年選出代議員選挙実施、平成 27 年選出役員候補者選挙準備

平成26年度 収支予算書(案)
平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

科 目	備考	平成26年度 予算額 (H. 26. 4. 1~ H. 27. 3. 31)	平成25年度 予算額 (H. 25. 4. 1~ H. 26. 3. 31)	差異
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		1,000	1,000	0
特定資産受取利息収入		1,000	1,000	0
②会費収入		79,800,000	74,600,000	5,200,000
正会員会費収入	※1	79,500,000	74,300,000	5,200,000
賛助会員会費収入	※2	300,000	300,000	0
③学会誌収入(購読集含む)		2,150,000	2,163,000	△13,000
④寄附金収入(学術集会含まず)		1,000,000	1,500,000	△500,000
災害看護支援寄附金収入		1,000,000	1,500,000	△500,000
その他の寄附金収入		0	0	0
⑤雑収入		4,403,000	2,003,000	2,400,000
受取利息収入		3,000	3,000	0
著作権料収入		100,000	100,000	0
セミナー収入	※3	4,300,000	1,900,000	2,400,000
その他雑収入		0	0	0
④学術集会収入		41,064,800	42,262,000	△1,197,200
学術集会参加費収入		32,350,000	31,280,000	1,070,000
事前登録会員(10,000円)		13,000,000	12,000,000	1,000,000
事前登録非会員(12,000円税込)		5,400,000	5,160,000	240,000
学部生(3,000円)		150,000	180,000	△30,000
当日登録会員(12,000円)		9,600,000	9,600,000	0
当日登録非会員(14,000円税込)		4,200,000	4,340,000	△140,000
当日登録学部生(5,000円)		-	-	-
寄附金・助成金収入		350,000	1,000,000	△650,000
広告販売収入		7,624,800	9,342,000	△1,717,200
企業展示出展料		3,412,800	3,210,000	202,800
広告掲載料		2,484,000	4,242,000	△1,758,000
スポンサーードセミナー		1,728,000	1,890,000	△162,000
懇親会収入		640,000	640,000	0
雑収入		100,000	0	100,000
事業活動収入合計(Ia)		128,418,800	122,529,000	5,889,800
2. 事業活動支出				
①事業費支出		81,165,400	81,958,950	△793,550
学会誌発行費支出		22,910,000	29,531,000	△6,621,000
和文誌編集・印刷費支出	※4	7,200,000	10,350,000	△3,150,000
和文誌送費支出		1,830,000	2,816,000	△986,000
英文誌編集費支出	※5	13,880,000	15,020,000	△1,140,000
英文誌送費支出		0	1,345,000	△1,345,000
編集活動費支出		3,113,000	2,393,000	720,000
和文誌編集委員会費支出		580,000	640,000	△60,000
英文誌編集委員会費支出	※6	2,533,000	1,753,000	780,000
看護学術振興費支出		5,084,100	4,973,000	111,100
看護学術用語検討委員会費支出		854,000	576,000	278,000
国際活動推進委員会費支出		800,000	975,000	△175,000
看護倫理検討委員会費支出		780,000	500,000	280,000
研究・学術情報委員会費支出		453,100	511,000	△57,900
表彰論文選考委員会費支出		220,000	311,000	△91,000
災害看護支援事業専門委員会支出		172,000	100,000	72,000
学術振興事業検討委員会		305,000	500,000	△195,000
災害看護支援助成金支出	※7	1,500,000	1,500,000	0
研究学術活動費支出		2,240,000	1,201,000	1,039,000
受賞論文表彰費支出		170,000	80,000	90,000
研究倫理審査委員会費		120,000	121,000	△1,000
セミナー等開催費		1,950,000	1,000,000	950,000
社会的活動費支出		929,000	1,256,500	△327,500
社会貢献委員会支出(市民フォーラム開催費含む)		929,000	1,256,500	△327,500
総務費支出		1,147,000	1,102,000	45,000
総務委員会費支出		400,000	370,000	30,000
広報委員会費支出		747,000	732,000	15,000

科 目	備考	平成26年度 予算額 (H. 26. 4. 1~ H. 27. 3. 31)	平成25年度 予算額 (H. 25. 4. 1~ H. 26. 3. 31)	差異
学術集会費支出		45,742,300	41,502,450	4,239,850
当年度開催学術集会		43,242,300	39,171,700	4,070,600
会場費支出		20,796,000	19,829,010	966,990
会議費支出		735,000	408,660	326,340
旅費交通費支出		1,400,000	1,146,000	254,000
消耗品費支出		452,000	60,000	392,000
通信運搬費支出(プログラム送料含む)		1,603,500	1,177,150	426,350
印刷製本費支出(プログラム印刷含む)		8,405,500	7,473,640	931,860
委託費支出		6,880,300	5,115,370	1,764,930
人件費支出		0	516,000	△ 516,000
謝金支出		600,000	290,000	310,000
賃借料支出		0	0	0
渉外費支出		140,000	0	140,000
雑支出		1,270,000	2,110,470	△ 840,470
懇親会運営費支出		960,000	1,045,400	△ 85,400
次年度開催学術集会(準備期間)		2,500,000	2,330,750	169,250
会場費支出		0	0	0
会議費支出		50,000	49,500	500
旅費交通費支出		500,000	490,000	10,000
消耗品費支出		10,000	10,000	0
通信運搬費支出(パンフレット送料含む)		770,000	725,000	45,000
印刷製本費支出(パンフレット印刷含む)		1,010,000	906,250	103,750
委託費支出		160,000	150,000	10,000
人件費支出		0	0	0
謝金支出		0	0	0
賃借料支出		0	0	0
渉外費支出		0	0	0
雑支出		0	0	0
懇親会運営費支出		0	0	0
②管理費支出		45,412,000	40,987,000	4,425,000
給料手当支出	※8	16,530,000	15,550,000	980,000
通勤費支出	※9	2,440,000	1,407,000	1,033,000
福利厚生費支出		1,932,000	1,640,000	292,000
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費		200,000	500,000	△ 300,000
社員総会費	※10	2,880,000	2,660,000	220,000
理事会費		2,360,000	2,338,000	22,000
委託費支出	※11	4,100,000	4,134,000	△ 34,000
渉外費支出		30,000	30,000	0
旅費交通費支出	※12	280,000	280,000	0
通信運搬費支出		2,132,000	2,050,000	82,000
消耗品費支出		1,090,000	1,000,000	90,000
印刷製本費支出		86,000	120,000	△ 34,000
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		660,000	660,000	0
賃借料支出	※13	4,580,000	4,900,000	△ 320,000
保険料支出		8,000	8,000	0
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出	※14	570,000	570,000	0
負担金支出	※15	150,000	280,000	△ 130,000
修繕費支出		50,000	50,000	0
選挙費用支出		2,670,000	150,000	2,520,000
資格喪失者会費支出		1,000,000	1,000,000	0
雑支出		1,264,000	1,260,000	4,000
事業活動支出合計(I b)		126,577,400	122,945,950	3,631,450
事業活動収支差額(I a)-(I b)		1,841,400	△ 416,950	2,258,350

科 目	備考	平成26年度 予算額 (H. 26. 4. 1~ H. 27. 3. 31)	平成25年度 予算額 (H. 25. 4. 1~ H. 26. 3. 31)	差異
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
①特定資産取崩収入		4,470,000	1,950,000	2,520,000
選挙積立取崩収入		2,670,000	150,000	2,520,000
退職給付引当資産取崩収入		300,000	300,000	0
災害看護支援資産取崩収入		1,500,000	1,500,000	0
②その他投資活動収入		105,000	0	105,000
長期前払費用振替収入(事務所更新料)		105,000	0	105,000
投資活動収入合計(Ⅱa)		4,575,000	1,950,000	2,625,000
2. 投資活動支出				0
①特定財産取得支出		3,100,000	2,300,000	800,000
選挙積立預金支出		1,500,000	200,000	1,300,000
退職給付引当資産取得支出		600,000	600,000	0
災害看護支援資産取得支出		1,000,000	1,500,000	△ 500,000
②固定資産取得支出		100,000	100,000	0
什器備品購入支出		100,000	100,000	0
③その他投資活動支出		0	105,000	△ 105,000
長期前払費用取得支出(事務所更新料)		0	105,000	△ 105,000
投資活動支出合計(Ⅱb)		3,200,000	2,505,000	695,000
投資活動収支差額(Ⅱa)-(Ⅱb)		1,375,000	△ 555,000	1,930,000
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入合計(Ⅲa)		0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出合計(Ⅲb)		0	0	0
財務活動収支差額(Ⅲa)-(Ⅲb)		0	0	0
Ⅳ 予備費支出		3,000,000	3,000,000	0
当期収支差額		216,400	△ 3,971,950	4,188,350
前期繰越収支差額		55,929,290	59,901,240	△ 3,971,950
次期繰越収支差額		56,145,690	55,929,290	216,400

- ※1 平成26年4月1日時点での会員数を7,600名、新入会者・再入会者700名、資格喪失者350名と見積もり、合計請求人数を7,950名として計上
- ※2 ㈱日本看護協会出版会2口、㈱医学書院・㈱南江堂・㈱へるす出版・(有)ヌーヴェルヒロカワ各1口。会費1口50,000円。
- ※3 JJNSセミナー受講料(130万)、JANSセミナー受講料(100万×3回)で見積り
- ※4 日本看護科学会誌(電子ジャーナル+年1回合本版)の印刷製本費、編集事務費・通信費、論文データベース作成費、学術集会講演集定期購読等販売用印刷製本費
- ※5 JJNS(Online Journal)の編集費、オンライン投稿利用料、編集事務費、英文誌編集長謝金(旅費交通費を含め年間200万円)
- ※6 英文誌編集委員会企画セミナー、若手研究者支援事業に関わる経費支出を含む
- ※7 災害看護支援事業への寄付金を活用し、助成および広報活動を行う
- ※8 正職員3名、パート6名(週1日~3日勤務)の給与・賞与(総務担当パート職員1名増員を含む)。
- ※9 転居により通勤経路が変更となるため通勤費を増額し、これに伴い社会保険料、健康診断料も増額した。
- ※10 定例理事会6回(5月、6月、9月、10月、12月、2月)、社員総会2回(6月、12月)民間会議場使用、学会総会1回(12月)学術集会会議場使用
- ※11 会計顧問料、公認会計士監査報酬、事務所管備委託費、封入委託費、会員管理システム利用料(学術集会参加登録システム・行事管理システムを含む)、JANSホームページ年間維持更新管理料、ホームページ英訳費用、Web会議システム、JANSセミナーアンケート集計
- ※12 事務所職員の出張に伴う交通費(5名分)。通勤費は「通勤手当」費目にて別途計上。
- ※13 事務所賃借料、カラー印刷機リース料、紙折り機リース料、レーザープリンタ複合機リース料
- ※14 収益事業(学会誌販売収入、著作権収入、学術集会に伴う広告販売収入)に関わる法人税および法人事業税は0円、法人都民税約7万円(均等割分のみ)。消費税課税売上高(学術集会非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など)に係る消費税(簡易課税方式)。
- ※15 日本看護系学会協議会8万円、看護系学会等社会保険連合7万円

平成26年度 収支予算書 (案)

平成26年4月1日から平成27年3月31日

公益社団法人 日本看護科学学会

科目	公益目的事業					収益事業等		法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売		
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
受取会費									
正会員受取会費									
賛助会員受取会費									
事業収益									
学会誌収益(講演集会等)		2,150,000							
学術集会参加費			32,350,000						
広告販売収入							7,624,800	7,624,800	
寄付金・助成金	1,000,000		350,000						
雑収益									
受取利息									4,000
著作権料									100,000
継続会収入 (※)									640,000
セミナー収益	3,000,000	1,300,000							4,300,000
その他の雑収入			100,000						100,000
経常収益計	4,000,000	3,450,000	32,800,000		32,100,000		7,624,800	7,624,800	128,418,800
① 事業費									
学会誌発行費		22,910,000							22,910,000
受賞論文表彰費		170,000							170,000
災害看護支援助成金	1,500,000								1,500,000
会場費	1,340,000								22,786,000
会議費	207,000		20,432,629	350,000			363,371	363,371	1,191,000
旅費交通費	2,361,728	1,123,238	771,284	39,000			13,716	13,716	2,786,000
消耗品費	334,871	125,461	1,891,154	272,518			34,857	34,857	1,500,000
通信運搬費	462,721	356,939	548,731	39,803			2,869	2,869	5,686,364
印刷製本費	86,164	142,137	2,517,462	39,174			14,526	14,526	1,074,560
委託費	1,220,617	1,560,266	9,258,462	30,773			54,093	54,093	3,452,233
人件費(学術集会・委員会)	180,000	100,000	7,273,887	36,874			165,027	165,027	9,683,444
諸謝金	641,000	100,000	589,516	40,000			147,287	147,287	10,280,939
雑費	282,576	107,902	1,357,747	31,368					320,000
租税公課							10,484	10,484	1,471,000
通勤手当	458,611	202,500	212,222	21,944					1,822,218
連贈給付費用	112,773	49,795	52,186	5,396			29,674	29,674	570,000
福利厚生費	363,130	160,340	168,038	17,376			570,000	570,000	934,721
光熱水料費	124,051	54,775	57,404	5,936			3,552	3,552	29,850
賃借料	860,836	380,102	398,352	41,191			11,437	11,437	740,116
修繕費	9,398	4,160	4,349	450			3,907	3,907	252,835
火災保険料	1,504	664	696	72			27,113	27,113	1,754,520
減価償却費	9,398	4,150	4,349	450			296	296	19,155
渉外費			137,554						3,065
支払負担金							2,446	2,446	19,155
支給寄付金									140,000
給料手当	3,106,902	1,371,855	1,437,719	148,665		6,065,141	97,855	169,365	6,332,361

科目	公益目的事業					収益事業等			法人会計	合計	
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業			計
②管理費											
総務会費										960,000	
学会総会費										200,000	
社員総会費										2,880,000	
理事会費										2,360,000	
会場費										72,000	
会議費										1,662,736	
旅費交通費										672,440	
消耗品費										1,999,947	
通信運搬費										353,056	
印刷製本費										3,326,861	
委託費										320,000	
人件費(委員会)										200,000	
諸謝金										782,602	
雑費											
租税公課										1,505,279	
通勤手当										370,150	
退職給付費用										1,191,884	
福利厚生費										407,165	
光熱水料費										2,825,480	
賃借料										30,845	
修繕費										4,935	
火災保険料										180,845	
減価償却費										30,000	
渉外費										50,000	
慶弔費										150,000	
支払負担金											
支払寄付金											
給料手当										10,197,639	
経費用計	13,663,280	29,384,274	47,113,741	1,250,990		91,412,285	1,564,428	366,823	1,931,251	126,077,400	
当期経常増減額	-9,663,280	-25,934,274	-14,313,741	-1,250,990	32,100,000	-19,062,285	6,060,372	-366,823	5,693,549	2,341,400	
2. 経常外増減の部											
(1) 経常外収益											
経常外収益計											
(2) 経常外費用											
経常外費用計											
当期経常外増減額											
他会計振替額											
税引前当期一般正味財産増減額	-9,663,280	-25,934,274	-14,313,741	-1,250,990	37,611,756	-13,550,529	-5,511,756	0	181,793	2,341,400	
法人税、住民税及び事業税							70,000		70,000	70,000	
当期一般正味財産増減額	-9,663,280	-25,934,274	-14,313,741	-1,250,990	37,611,756	-13,550,529	478,616	-366,823	111,793	2,271,400	

注1 従来形式の収支予算書で表示されている各委員会費支出、学術集会費支出、学術集会費支出は、事業の目的別に区分をし、各費用科目に予算を計上している。
注2 従来形式の収支予算書の事業費、管理費は科目ごとに一定の配賦割合(面積割合や従事割合など)に基づき、本収支予算書の事業費、管理費に配賦されている。
注3 従来形式の収支予算書に表示されている「退職給付支出」、「資格喪失者会費支出(貸倒損失)」、「投資活動収支」、「予備費」は本予算書には算入しない。
注4 従来形式の収支予算書に表示されていない「減価償却費」、「退職給付費用(積立額)」を本予算書に計上している。

※ 学会総会提出時の資料では、公益目的事業の経常収益計72,990,000円、公益目的事業の当期計上増減額は-18,422,285円となっておりましたが、その後の内閣府の指導により、公益目的事業区分で計上していた学術集会費収入(640,000円)を法人会計区分に移行したため、本資料では、公益目的事業の経常収益計72,350,000円、公益目的事業の当期計上増減額は-19,062,285円に変わっております。予算書全体の合計、当期経常増減額、公益目的事業比率については変更ありません。

名誉会員の承認について

名誉会員についての定款上の規程

第12条 名誉会員は、看護学の発展に多大の寄与をした者の中から、理事会及び社員総会の承認を得たものとする。

2 名誉会員は、社員総会に出席し意見を述べることができる。

3 第1項の承認について、理事長は、学会総会に報告しなければならない。

第14条 会員は、社員総会で定める会費を納めなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、名誉会員は、会費の納入を要しない。

名誉会員推薦についての理事会申し合わせ事項

1) 「看護学の発展に多大の寄与をした」ことの解釈・・・次のいずれかに該当すること。

- ① JANSの学術集会会長、国際学術集会会長を務めた。
- ② JANSの理事長、もしくは理事を通算3期以上務めた。
- ③ ①、②に相当の働きをしたと理事会が認めた。
- ④ その他・・・看護学の発展に格段の貢献をしたもの。

2) 本人の同意があること

平成25年12月社員総会で名誉会員に推薦する会員 (了承を得て履歴等の情報を記載しております)

	中島 紀恵子 氏
略 歴	掲載省略
会 員 歴	1983年3月26日～2013年3月31日 (通算30年)
学術集会会長歴	第18回日本看護科学学会学術集会会長
代 議 員 歴	評 議 員 1987年～1989年、1990年～1992年、1996年～1998年、 1999年～2001年、2005年～2007年 代 議 員 2007年～2011年

	小玉 香津子 氏
略 歴	掲載省略
会 員 歴	1984年11月19日～2011年3月31日 (通算27年)
役 員 代 議 員 歴	評 議 員 1987年～1989年、1990年～1992年、1996年～1998年、 1999年～2001年、2005年～2007年 代 議 員 2007年～2011年 理 事 1987年～1989年、1990年～1992年 監 事 1996年～1998年、1999年～2001年、2005年～2007年

第 36 回日本看護科学学会学術集会会長の承認について

- ・ 第 36 回（平成 28 年度）日本看護科学学会学術集会会長 候補者

岡谷 恵子 （東京医科大学）